



## 2019年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年2月8日

上場会社名 株式会社第一興商 上場取引所 東  
 コード番号 7458 URL <https://www.dkkaraoke.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 保志 忠郊  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 西原 康尚 (TEL) 03 (3280) 2151  
 四半期報告書提出予定日 2019年2月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2019年3月期第3四半期の連結業績(2018年4月1日~2018年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第3四半期	107,911	1.1	16,704	△2.7	17,707	△1.7	14,878	29.6
2018年3月期第3四半期	106,690	1.0	17,167	7.8	18,017	2.0	11,478	26.8

(注) 包括利益 2019年3月期第3四半期 14,274百万円( 18.2%) 2018年3月期第3四半期 12,076百万円( △1.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第3四半期	261.43	261.12
2018年3月期第3四半期	201.19	201.01

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第3四半期	186,206	131,633	69.8
2018年3月期	180,190	125,356	68.7

(参考) 自己資本 2019年3月期第3四半期 129,961百万円 2018年3月期 123,792百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	55.00	—	56.00	111.00
2019年3月期	—	56.00	—		
2019年3月期(予想)				56.00	112.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2019年3月期の連結業績予想(2018年4月1日~2019年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	142,500	0.8	20,000	△5.2	21,300	△2.6	16,000	22.0	282.42

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日(2019年2月8日)公表しました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2019年3月期3Q	57,234,200株	2018年3月期	57,234,200株
2019年3月期3Q	580,262株	2018年3月期	266,228株
2019年3月期3Q	56,910,852株	2018年3月期3Q	57,051,628株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】P. 4「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績の状況 .....	2
(2) 財政状態の状況 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
(四半期連結損益計算書) .....	7
(四半期連結包括利益計算書) .....	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間（2018年4月1日～2018年12月31日、以下「当第3四半期」という。）におけるわが国の経済は、引続き堅調な雇用・所得環境を背景に、緩やかな回復基調が続くものの、米国発の保護主義的な通商・外交政策による貿易摩擦の懸念など、依然として先行き不安定な状況で推移いたしました。

当カラオケ業界におきましては、ナイト市場は依然として漸減傾向で推移しており、また、カラオケボックス市場における事業者間の競争が激しさを増すなか、一部大手カラオケチェーン店間の経営統合が実行されるなど、同市場の寡占化が進行しております。一方、エルダー市場においては、「歌うこと＝健康」の認知が拡がり、市場は順調に拡大しております。

この様ななか、各事業におきまして諸施策を実施した結果、当第3四半期は、売上高は107,911百万円（前年同期比1.1%増）、利益におきましては、営業利益は16,704百万円（同2.7%減）、経常利益は17,707百万円（同1.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、不動産の譲渡に伴う特別利益の計上により14,878百万円（同29.6%増）となりました。なお、当第3四半期における売上高及び親会社株主に帰属する四半期純利益は、過去最高となっております。

(百万円)

	前第3四半期 累計	当第3四半期 累計	対前期増減	増減率
売上高	106,690	107,911	1,220	1.1%
営業利益	17,167	16,704	△462	△2.7%
経常利益	18,017	17,707	△310	△1.7%
親会社株主に帰属する四半期純利益	11,478	14,878	3,399	29.6%

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### (業務用カラオケ)

当事業におきましては、引続き安定収益と位置付ける機器賃貸件数の拡大に加え、旧機種から新機種への入替え促進による情報提供料収入単価の向上に注力いたしました。また、カラオケ市場の活性化とカラオケDAMの差別化を図るため、「B'z」や「安室奈美恵」を始めとする人気アーティストのミュージックビデオやLIVE映像を独占配信するなど、商品力の強化に努めました。エルダー市場におきましては、(一社)日本音楽健康協会との連携等により、DKエルダーシステムの普及活動を推し進め、稼働台数の拡大に注力しております。昨年11月には、宿泊市場・宴会市場に特化した新商品「Party DAM 20V」を発売し、商品ラインアップの充実に努めました。

以上の結果、「LIVE DAM STADIUM」の発売から3年経過したことに伴い、商品出荷が軟調に推移したことにより、売上高は前年同期比1.8%の減収となりました。利益面におきましては機器賃貸の原価低減に努めたものの、営業資産の買取りに伴う一時的なコストが発生したことなどにより、営業利益は前年同期比4.5%の減益となりました。

(百万円)

	前第3四半期 累計	当第3四半期 累計	対前期増減	増減率
売上高	48,995	48,093	△902	△1.8%
営業利益	11,678	11,157	△520	△4.5%

(カラオケ・飲食店舗)

当事業におきましては、収益基盤の拡充を図るために、カラオケルームにおいて「ビッグエコー」の新たなフラッグシップ店舗、「梅田茶屋町本店」「渋谷センター街本店」を含む13店舗及び飲食店舗5店舗を出店いたしました。また、当期はビッグエコー30周年にあたり、「ビッグエコー」ブランドカの更なる向上を図るため、顧客満足度を高めるハード・ソフト両面の強化に注力いたしました。

ハード面におきましては、30周年キャンペーン企画の一環として、大手カラオケチェーン初となる、ビッグエコー全店へのWi-Fi及びスマホ充電器の設置やNTTドコモ社の「dポイント」サービスを導入するなど、お客様への利便性向上に努めました。

ソフト面におきましては、採用方法の多様化を進めると共に、全国30拠点を結ぶWeb研修の拡充を図り教育体制を強化するなど、人材の確保と育成に努めました。

以上の結果、当事業の売上高は、年間最大の繁忙期である年末商戦においてカラオケ・飲食とも好調に推移したことに加え、前期に子会社化した株式会社Airsideの売上貢献により前年同期比4.3%の増収となりました。営業利益におきましては、上記フラッグシップ店舗を含む新店舗の出店や、店舗スタッフの平均時給の上昇による原価増のほか、30周年を記念したお客様への還元キャンペーンなどの販管費の増加もあり、前年同期比0.1%の増益となりました。

(百万円)

	前第3四半期 累計	当第3四半期 累計	対前期増減	増減率
売 上 高	45,723	47,703	1,980	4.3%
営 業 利 益	6,435	6,439	4	0.1%

(音楽ソフト)

当事業におきましては、引続きヒット曲の創出、新人アーティストの発掘に努め、一定の成果を収めました。また、当社グループネットワークの活用、連携強化による相乗効果と業務の効率化に注力いたしましたが、厳しさを増す市場環境のなか、売上高が前年同期比5.0%減少したことにより74百万円の営業損失となりました。

(百万円)

	前第3四半期 累計	当第3四半期 累計	対前期増減	増減率
売 上 高	5,907	5,611	△296	△5.0%
営 業 利 益	△23	△74	△50	—

(その他)

当事業におきましては、BGM放送事業において光回線を活用した「スターデジオ光」に加え、モバイル回線を活用した「スターデジオAir」を昨年4月より提供開始いたしました。また、「ザ・パーク」ブランドで展開するコインパーキング事業の拡大に努めるほか、不動産賃貸、コンシューマー向けストリーミングカラオケサービスなども堅調に推移するなか、不動産賃貸収入やパーキング事業収入等の増加により売上高は前年同期比7.2%の増収、営業利益におきましては、前年同期比3.2%の増益となりました。

(百万円)

	前第3四半期 累計	当第3四半期 累計	対前期増減	増減率
売 上 高	6,063	6,502	439	7.2%
営 業 利 益	1,227	1,266	39	3.2%

(2) 財政状態の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ6,016百万円増加し、186,206百万円となりました。

増減の主なものとしては、流動資産では、現金及び預金が9,623百万円及び受取手形及び売掛金が830百万円それぞれ増加し、有価証券が4,969百万円減少しております。

固定資産では、敷金及び保証金が1,020百万円増加し、土地が944百万円減少しております。

負債の部につきましては、前連結会計年度末に比べ260百万円減少し、54,573百万円となりました。

増減の主なものとしては、流動負債では、支払手形及び買掛金が614百万円増加し、未払法人税等が512百万円減少しております。

固定負債では、長期借入金が479百万円減少しております。

純資産の部につきましては、前連結会計年度末に比べ6,277百万円増加し、131,633百万円となりました。

これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加14,878百万円、剰余金の配当による利益剰余金の減少6,380百万円及び自己株式の取得による減少1,676百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2018年5月14日に公表しました2019年3月期通期連結業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日(2019年2月8日)公表しました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	45,538	55,161
受取手形及び売掛金	5,132	5,963
有価証券	4,969	—
たな卸資産	6,252	6,649
その他	5,660	6,644
貸倒引当金	△175	△146
流動資産合計	67,378	74,273
固定資産		
有形固定資産		
カラオケ賃貸機器 (純額)	9,794	9,267
カラオケルーム及び飲食店舗設備 (純額)	19,299	19,266
土地	38,053	37,108
その他 (純額)	8,258	8,209
有形固定資産合計	75,405	73,852
無形固定資産		
のれん	4,065	3,568
その他	6,198	6,723
無形固定資産合計	10,263	10,291
投資その他の資産		
投資有価証券	5,288	4,539
敷金及び保証金	14,263	15,283
その他	7,656	8,039
貸倒引当金	△65	△73
投資その他の資産合計	27,142	27,788
固定資産合計	112,812	111,933
資産合計	180,190	186,206

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,421	4,035
短期借入金	4,015	4,055
1年内償還予定の社債	—	6,500
未払法人税等	4,652	4,139
賞与引当金	1,128	1,078
その他	12,146	11,756
流動負債合計	25,365	31,565
固定負債		
社債	6,500	—
長期借入金	12,587	12,108
役員退職慰労引当金	1,047	866
退職給付に係る負債	6,176	6,546
その他	3,157	3,487
固定負債合計	29,469	23,007
負債合計	54,834	54,573
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	12,350	12,350
資本剰余金	4,003	4,003
利益剰余金	108,489	116,986
自己株式	△1,309	△2,986
株主資本合計	123,534	130,354
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,261	561
土地再評価差額金	△733	△733
為替換算調整勘定	87	65
退職給付に係る調整累計額	△356	△286
その他の包括利益累計額合計	258	△393
新株予約権	203	276
非支配株主持分	1,359	1,395
純資産合計	125,356	131,633
負債純資産合計	180,190	186,206



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
売上高	106,690	107,911
売上原価	64,233	65,563
売上総利益	42,457	42,347
販売費及び一般管理費	25,289	25,643
営業利益	17,167	16,704
営業外収益		
受取利息	43	42
受取協賛金	261	288
為替差益	228	216
その他	750	764
営業外収益合計	1,283	1,312
営業外費用		
支払利息	239	121
解約違約金	30	78
その他	163	109
営業外費用合計	432	308
経常利益	18,017	17,707
特別利益		
固定資産売却益	100	5,220
固定資産譲受益	24	—
投資有価証券売却益	0	61
特別利益合計	124	5,281
特別損失		
固定資産処分損	225	172
減損損失	151	16
特別損失合計	376	188
税金等調整前四半期純利益	17,765	22,801
法人税、住民税及び事業税	5,995	7,765
法人税等調整額	243	109
法人税等合計	6,239	7,874
四半期純利益	11,525	14,926
非支配株主に帰属する四半期純利益	47	48
親会社株主に帰属する四半期純利益	11,478	14,878

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
四半期純利益	11,525	14,926
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	425	△699
為替換算調整勘定	47	△22
退職給付に係る調整額	77	70
その他の包括利益合計	550	△652
四半期包括利益	12,076	14,274
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	12,028	14,226
非支配株主に係る四半期包括利益	47	48

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	業務用 カラオケ	カラオケ・ 飲食店舗	音楽ソフト	計				
売上高	48,995	45,723	5,907	100,627	6,063	106,690	—	106,690
セグメント利益又は 損失(△) (営業利益又は営業 損失(△))	11,678	6,435	△23	18,090	1,227	19,317	△2,149	17,167

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、BGM放送事業、Web事業及び不動産賃貸事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△2,149百万円は、主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門における一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産の減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な異動)

「カラオケ・飲食店舗事業」において、株式会社Airsideの全株式を取得したことに伴い、連結の範囲に含めております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において、3,603百万円であります。

当第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	業務用 カラオケ	カラオケ・ 飲食店舗	音楽ソフト	計				
売上高	48,093	47,703	5,611	101,408	6,502	107,911	—	107,911
セグメント利益又は 損失(△) (営業利益又は営業 損失(△))	11,157	6,439	△74	17,522	1,266	18,789	△2,084	16,704

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、BGM放送事業、Web事業及び不動産賃貸事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△2,084百万円は、主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門における一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。